平成25年度第2回広島市立図書館協議会 会議要旨

日 時	平成26年2月26日（水） 午後1時30分～3時20分		
場 所	中央図書館 3階セミナー室		
公開・非公開の別	公 開	傍聴人	なし
出席者	<p>委 員：竹川委員、和田委員、岡田委員、葛原委員、池田委員、吉本委員、竹澤委員、林委員、松本委員</p> <p>事務局：林生涯学習課長、清水中央図書館長、藤井中央図書館副館長、片山中央図書館事業課長、野口こども図書館長、國田中区図書館長、小川東区図書館長、吉竹南区図書館長、角田西区図書館長、小林安佐南区図書館長、富中安佐北区図書館長、神田安芸区図書館長、河野佐伯区図書館長、上田湯来河野閲覧室長、幸田まんが図書館長、川上あさ閲覧室長</p>		

議 事（会議要旨）

	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選任について</p> <p>広島市立図書館協議会規則第2条第2項に、「委員長及び副委員長は委員の互選とし、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。」と規定されている。平成24年11月20日に開催した会議での選任から1年を経過したため、本日、改めて、委員長及び副委員長を選任する必要がある。</p> <p>選出に当たっては、委員としての任期は2年間で、今年9月末日が任期満了日となっており、また、図書館サービスの充実について継続審議中であることから、事務局案として、委員長については林委員に、副委員長については竹澤委員に、引き続きお願いすることを提案したところ、全委員がこれに同意し、委員長として林委員を、副委員長として竹澤委員を再任した。</p> <p>(2) 平成26年度広島市立図書館主要事業について</p> <p>資料1に沿って、中央図書館副館長及び生涯学習課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。</p>
池田委員	○「家庭読書アドバイザー養成講座（仮称）」では、何名くらいのアドバイザー養成を予定しているのか。また、これまでの効果はどうか。
こども図書館長	○50人程度に講座に参加してもらい、うち30人程度にアドバイザーとして活動してもらいたいと考えている。本市では今回が初めての取組であるが、青森県や島根県で取組事例があり、以前から取り組んでいる青森県では家庭での読書が広まったという効果があったと聞いている。

林委員長	○受講者のターゲットはどうか。
こども図書館長	○お話会ボランティアとして長年活動されている方や、幼稚園・保育園の先生の経験者に参加を呼びかける予定である。
葛原委員	○公益財団法人への移行について教えていただきたい。また、図書館事業が財団全体の中でどういう位置付けになっているのか。
中央図書館長	○国が進める公益法人制度改革の一環として、図書館が所属する財団法人広島市未来都市創造財団は、平成26年度から、公益財団法人に移行し、名称を公益財団法人広島市文化財団に改称しようとするものである。 ○来年度、財団の活性化と施設の利用促進を図ることを目的として、財団法人の収益を活用した記念事業として11事業を実施する予定であり、そのうち図書館関係が2事業で資料1に掲げているものである。
竹澤委員	○（自身が勤務する）広島市立大学は、平成26年度に開学20周年を迎える。中央図書館開館40周年関連事業の記念講演会の内容、会場、参加募集人数とその募集方法について教えていただきたい。
中央図書館事業課長	○講演会の講師については、調整中である。会場は、アステールプラザ中ホール（収容人数約500人）で検討している。 ○募集人数のうち300人程度は、対象を市民とし、広報紙等で広く募集したいと考えている。残り200人程度は、地域で図書ボランティアとして活動されている方や学校関係者等に参加を呼びかけたいと考えている。
林委員長	○中央図書館の一事業としてだけでなく、例えば市立大学とコラボするなどして、広がりのある展開となっていくよう考えていただきたい。 (3) 被爆70周年記念事業について 資料2に沿って、生涯学習課長が説明し、質疑応答を行った。その概要は、以下のとおりである。
池田委員	○「子どもたちへ原爆を語りつぐ本」に掲載された図書は、こども図書館だけでなく区図書館や公民館図書室でも借りられる体制になっているのか。
こども図書館長	○各区図書館で原爆に関する図書のコーナーを設けているが、全館がすべての関連図書を揃えることはスペース上難しい。

松本委員	<p>○公民館図書室も配本冊数に限りがあり、原爆に関する図書を網羅するのは難しい。</p> <p>○「子どもたちへ原爆を語りつぐ本」の発行は、中学生以下が対象のようだが、高校生向けの事業は実施しないのか。</p>
中央図書館事業課長	<p>○中央図書館の広島資料室に、高校生以上向けの図書を取り揃えている。</p>
竹川委員	<p>○ブックトークについて、実施方法や回数についてどのように考えているのか。</p>
こども図書館長	<p>○現時点では、こども図書館において1回開催することを計画している。</p>
林委員長	<p>○可能であれば、学校などに出前してもらいたい。家庭読書アドバイザーと一緒に取り組むことができればよいと思う。</p> <p>○（目録に追加掲載する本の作家による）「自作を語る」講演会は、どのようなものか。</p>
こども図書館長	<p>○会場は、こども文化科学館アポロホール（収容人数200人）を予定している。講師は検討中である。</p>
林委員長	<p>○被爆70周年記念事業の実施に当たり、予算をかけないでいかに効果的に実施するか、あるいは、スポンサーを募るといったことを考えてみてはどうか。</p>
生涯学習課長	<p>○市の担当部局に提案のあったことを伝える。図書館も限られた予算と人員体制の中で、様々な企画を実施しているが、提案を反映できる方策について研究してみたい。</p>
和田委員	<p>○多人数を対象とした事業だけでなく、地元の公民館などを会場として、地域のボランティアの協力をいただきながら、小さな企画を実施してはどうだろうか。</p> <p>○（自身の勤務する）二葉中学校では、地域内に居住されている被爆者の方にボランティアで来ていただき、体験談を語ってもらったことがある。子どもたちは、リアルな体験談から生きた学習ができた。子どもたちは、身近な関係性の中から学ぶことが大きい。お金をかけなくても、高い効果が得られる事例として、参考にさせていただきたい。</p>
竹川委員	<p>○市内の公立小学校では、朝の読書活動を100パーセント実施しているにもかかわらず、「基礎・基本」定着状況調査結果によると、1か月に1冊も読み切っていない子どもが数パーセントもいる。読み上げたという実感を持っていない不読傾向の子どもを何とかしたい。</p> <p>○ブックトーク事業や家庭読書アドバイザー養成事業などを通じて、子どもたちが良書にふれる機会を設けていただきたい。</p>

こども図書館長	○こども図書館では、今年度、年齢・学年別の図書リストを作成している。来年度、新小学1、3、5年生に配付する予定であり、配付を通じて、子どもたちに良書を紹介していきたい。
竹澤委員	○広島・長崎連携事業の交流展は、被爆70周年後も継続実施するのか。
中央図書館事業課長	○現時点では未定である。本市でも長崎市の図書館でもこれまでに積み重ねてきたものがあるので、一度の交流展では紹介しきれないと思う。何年後、節目の年に実施できればよいと思う。
林委員長	○節目に限って実施するとすぐに色あせてしまうので、余韻を残しながら次へつなげていく方法を考えてみていただきたい。
	<p>(4) その他</p> <p>【広島市立中央図書館条例の一部改正について】 資料3に沿って、生涯学習課長から概要を説明した。</p> <p>【コンピュータシステムの再構築について】</p>
中央図書館長	<p>○議事2で説明したとおり、平成27年10月に向けて、全蔵書（自動車図書館用図書を除く）にICタグを導入するとともに、コンピュータシステムの再構築を行うこととなった。</p> <p>○再構築に当たっては、システムの安定稼働、図書検索システムの機能向上と充実、インターネット予約の増加に伴う日常業務の増大への対応、多様化及び専門化する市民のニーズをふまえたレファレンス・サービスの充実・強化、図書館資料の紛失防止及び適正な保存・管理を行う、といった課題の解決を図ることとしている。</p> <p>○再構築のコンセプトとしては、平成18年の文部科学省提言「これからの図書館像」には、「これからの図書館は知識や情報の拠点として貸出・返却サービスだけでなく、豊富な資料を使ったレファレンス（調査・相談）サービスに重点を置く課題解決型図書館を目指すことが重要」と述べられていることから、本市においても、地域に関わる調査・相談、起業や中小企業の経営に関わる相談及び情報提供、高齢化社会への対応、子どもたちへの読書普及など私たちの身近な生活課題の解決に十分対応できる資料・情報の提供や専門職員によるレファレンス・サービスなどを行う「地域を支える情報拠点」としての図書館を目指すこととしている。</p> <p>○主な実施内容としては、セキュリティ対策の最適化、誰もが簡単に利用できる図書検索システムの実現、インターネットから利用者登録（仮登録）ができるなどの業務システムの改良、ICタグの全館導入を計画している。また、電子書籍貸出システムへの対応については、関連する課題の解決や全国的な状況を見て、導入時期を検討したい。</p>

和田委員	○今回のシステム再構築により、学校図書館とリンクができるようになるのか。
中央図書館長	○学校図書館とのネットワーク化については、物流システムの構築などの関連する課題が多く、現段階では見通しが立っていない。
林委員長	○司書との対話に温もりを求めて来館される方もいると思うが、機械化されると司書との対話が全くなくなってしまうのか。
中央図書館副館長	○現状では、貸出手続のために利用者にお待ちいただいている場合がある。貸出のセルフ化により、待ち時間が緩和されることを期待している。さらに、自動貸出機を使えば、他人に見られることなく本を借りることもできる。 ○また、相談に訪れた人や貸出手続に不慣れな人にも、司書が余裕を持って対応ができるようになる。
岡田委員	○カウンター業務が非常に多忙であると感じていた。司書に声をかけづらい雰囲気改善されるものと期待している。
葛原委員	○図書館の蔵書だけではレファレンス対応できない場合がある。システム再構築により効率よくなるのか。
中央図書館副館長	○システムによる改善はできないと思われる。今後も、相互貸借制度により、他館の蔵書を取り寄せるなどの対応をしてまいりたい。
	【その他（意見交換）】
池田委員	○図書館では、知恵を出し合って頑張っていると感じている。 ○魅力ある図書館は、そこで働く人であったり雰囲気によるところが大きい。岡山県立図書館は、入館者数が8年連続全国第1位だと聞いた。広島市ならではの取組に加え、他都市の良い点に学ぶ必要もあると思う。
松本委員	○広島の児童文学について、もう少し整理をして公開を進めていただきたい。児童文学にふれることによって、共感する心が育つ。中学生以下の子どもだけでなく、高校生や大人にも読んでもらいたい。リストをホームページ上で公開することを考えていただきたい。
吉本委員	○検索システムの使い方を教える講座があるとよい。
林委員長	○平成26年度に向けて、市民のためのより良い図書館となることを期待して、閉会と

事務局	<p>する。</p> <p>○来年度の第1回会議は、委員任期である9月末までに開催したいと考えている。詳細なスケジュール等については、後日連絡させていただく。</p>
-----	---